

JIA長野県クラブ 47

社団法人 日本建築家協会

2001. 3. 1



▲会員研修会 (CPD勉強会)



▲河野 進 JIA副会長



▲大宇根 弘司 JIA・CPD運営委員長



自然を尊敬して

監査 久保田 三代

朝テレビをつけると、大雪の羽田空港が写し出されていた。東北の空港が平常運行しているのに、それよりも雪の少ない羽田空港が欠航していることに、何という事だと、そんな非難のニュアンスの放送です。自然に負けることが、いつの間にか全て悪いことであるかのような風潮に、つい最近読んだ本の一節を思い出させました。

「人間と自然の間にも階層的秩序がつくれ、人間と自然は同格でなく、人間は自然を征服し、支配するものであるとされた。……産業革命とともに加速された工業社会においては“人間の意志あるところ道あり”と人間がなそうとすれば、何でもでき得るのだ。勤勉でさえあれば、できないことはない。その結果工業化、近代化は飛躍的に進んだ。そのために地球の資源は争って開発され、地球の生態系にひずみがおこるまでになった」。

また、科学は歴史的に長らく哲学と結びつき、それなりの倫理を内包していたと、しかし、近年は倫理を後回しに技術と結びつき、物事を絶対視することより物事を相対化してみようとする本来の科学ではなく、しかも自然のなかに法則性を発見し、自然を論理体系のうえに整

理するということが、科学の方向として唯一絶対視され、そしてそれは、科学のもっている自己矛盾であると述べている。

この著者の自然と科学の考えで、このテレビニュースをとらえると“この程度の雪で羽田空港が欠航なんてとんでもない”と頷くのに躊躇します。

また、自然環境について、日本人は自然はすべてを与えてくれる母のような存在であり人間がどんな行為をしても何とかなるだろう、許してもらえるだろうと思込んでいるふしがあるが間違いであると、自然に甘えたり、論理体系を整理できたと考えるのではなく、ある種の距離をおいて尊敬しなければならない、そして森羅万象は人間と対等の立場で存在し、人間はそれらに対して共存しなければならないとも述べている。

自分の仕事に照らしたとき、哲学、倫理を持った心で科学、技術を駆使し、自然に臆することなく尊敬すると教えられたことで、建築に対する考えが、コンセプトがより豊かになるのではないかと思えるのです。

そんなことを、頭に過らせた朝の一時でした。



第1回 会員研修会に参加して

山口 康 憲
(株)アーバー建築事務所

本年度からの新規事業として、会員委員会で計画されていた第1回会員研修会が、1月25日に本部より2人の講師をお招きして、メルパルク長野で開催された。当日は午後からの大雪も予想される中、正会員30名、賛助会員15名の参加を得た。

河野本部副会長からは『JIAの課題とこれから』というテーマで、法人問題と資格制度のお話があった。今何故法人格が問題なのかというのは、一般のJIA会員には理解しにくいテーマと感じていたが、その背景、現況及び問題点について、非常に判り易い説明であった。

社団法人たるJIAは現在公益法人であるが、それを含む特殊法人の基準が大幅に見直されるに当り、JIAの活動の目的と将来の方針を見極めた上で、求める法人格を迫られている、という背景があり、基本的には、社会に開かれた活動を通じて建築家の職能を認めてもらうという方向で公益法人を目指す、と昨年の通常総会で決議されている。しかし、中間法人として、職能的な利益を追求する組織に留まるべきとの意見も根強くあり、最終的には結論が持ち越されているとの事である。

大宇根CPD運営委員会委員長からは、CPDの詳細な説明があり、その後の座談会でも具体的な質問が多数出されたので、CPDの内容は概ね理解され、不安も殆ど払拭されたと思う。ただし、私自身お話を聞いていて深く考えさせられたのは、CPDの内容よりは、その背景として何故「資格制度」が必要なのかという事であった。

JIAにとって長年の懸案であった、国際的に通用する資格を作りたいという主旨から、UIA北京会議で策定された資格推奨基準に準拠する、独自の資格制度にしたいという強い意志がある事は当然だが、講師お2人共強調されていたのは、日本国内におけるプロフェッションの権威の失墜と、消費者へのアカウントビリティの必要性であった。国際的にも見劣りしない資格が求められているのは、私達会員自身というよりは、サービスを受ける側の消費者の為にこそ必要であるという事である。

座談会の後半、地方の会員の為に、CPDの自主認定プログラムが大幅に認められている事が判明すると、安堵の声よりは、真に高度な資格を担保する為には、ある一定の認定プログラムの割合を定めるべき、との建設的な意見が相次ぐの聞き、長野県クラブの会員の皆さんの見識の高さに感服すると同時に、身の引き締まる思いであった。



前川國男先生を想う

君島 弘 章
君島弘章建築設計事務所

今から15年前の1986年6月26日、私が敬愛する建築家前川國男が81歳で静かに息をひきとった。

東京海上ビルにまつわる景観論争について、孤立無援の中で戦い抜いた建築家前川國男の話は、僕が学生時代先生から聞かされ、建築家としての姿勢に僕の心は強くうたれた。学生の頃一度だけ、仲間と共に前川先生のお話を聞く機会があったが、自分勝手に考えていたイメージとは遠く、御高齢のせいか優しいお祖父さんであった。人間の質というか格とでもいうか「ああ、僕もこんな人間になりたい(こんな建築家というのではなく、こんな人間になりたい)」と一目で人間、前川國男の虜になってしまった。以後、様々な角度で前川先生を知るにつけ、建築家の生きざまとしての凄まじさに僕は息を呑むことになる。今日、建築家という以前に人間としての倫理、モラルを感じられる建築家は一体何人いるのだろうか。デザイン理論を声高らかにうたい、モラルのない徒花を咲かせた建築家の数は知れない。

ときおり、前川國男の理念は非現実的である。だから彼は幾多の敗北を喫したのだと言う人達がいる。僕に言わせるとモラルを捨てて仕事を取るということが現実的であるのなら、それこそが非現実的といわざるを得ない。人間が他の獣と違うのは「倫理」が存在することであると思うからだ。

果たして、前川國男ほどの光が今後現れるのか? 考える程にその闇は深まるばかりだ。

建築家協会において継続職能研修(CPD)の試行が始まるとのこと、故前川先生のDNAを受け継いだ高弟の鬼頭先生らの努力により、ようやく人材育成のステップを踏もうとしていることは感慨深い。前川先生の孤独な戦いは弟子が志を継ぎ、更に今、協会員全員の手にはバトナタッチされたとみるのは僕の独りよがりの解釈であろうか。

死してなお.. 前川國男の志は闇を照らし続けている。

追伸：一建築家の信条 前川國男 昌文社
建築の前夜 前川國男文集 而立書房
建築ジャーナリズム無頼 昌文社
興味ある方は是非読んでみてください。



コストプランニングに一考を

久保田 正博
(有)みずぶ設計

1月の大雪で南信でも多くの被害が出ました。各所道路の通行止めに始まり農業用ビニールハウスの倒壊等があり、また倒木による停電が5日間も続きランプの灯りと、かまどで煮炊きの生活を送ったところもありました。建築関係では旧中学校体育館、倉庫、車庫等の倒壊で多額の経済的損失や犠牲者までも出していました。

こうした大雪、大寒波や地震、台風等自然の猛威で様々な災害が起きた時、今の自分達のライフスタイルや設計上での計画をもう一度考え直す良い機会かもしれません。毎年冬になると、水道や給湯器からの配管の凍結事故が相変わらず多発しています。様々な機械設備の方式を含め、構造、デザイン等基本計画段階で改めて慎重な検討が必要になります。

さて、このところ積算のまとめがしばらく集中したのですが、この作業はまず大変細かくて根気のいる作業だとつくづく思っています。建築の芸術論が語られだして時がたちますが、この分野ではまさに経済産業分野と言えるでしょう。公共事業の場合メーカーの見積りを取り3社比較表を作るのですが、宛名、日付、工事名、単位等の間違いで平均3回は取り直しとなります(そこへ設計変更で見積り重なり...)。メーカーの書類チェック体制にかなり問題があると思います。また、せめて書式サイズは時代的にA4に統一ぐらいしておいてほしいところでは。

施主にとって、建築コストの内容が非常に分かりにくいと言われています。業種によっては相変わらず設計単価と現場請負単価の格差が大きく、設計者にとっても適正なところが非常に掴みにくい分野です。

計画におけるコストプランニングは大変大事なのですが、採用データを整理する時間もなく総額の坪単価で規模や仕様を計画するのが今の現状でしょうか。適正な単価も分かりにくく、実施設計をおこして見積り設計変更が当たり前になった昨今、小さな設計事務所でも何かもっと効率の良い方法はないものかと考えさせられるこの頃です。

お知らせ

2001年度通常総会

日時：2001年5月18日(金)

会場：「メルパルクNAGANO」長野市鶴賀高畑752-8

記念講演会 写真家 木田勝久氏



環境への提言

表 晃
三協アルミニウム工業(株)

今冬はまれにみる厳しい寒さが続いています。

と言いますのも、近年は比較的暖かく、また積雪量も少なくなっているようです。やはり何か気候に異変が起きているのでは?地球温暖化が進んでいるような気がいたします。

今世界的にCO₂によるオゾン層の破壊、エネルギー使用の増大によるエネルギーの危機が叫ばれています。特に身近な石油は使用可能年数約40年と推定されており、1997年地球温暖化防止京都会議でも日本は2012年までに1990年に対しCO₂排出6%の削減をうたわれています。環境にやさしい、環境への排出物がなく自然を守るという事で、太陽が代替エネルギーとして今注目されています。

私共の業界も、木製窓からアルミサッシへ、更に高断熱高気密の性能を有する資材をご提供してきましたが、時代の要請に基づき太陽光を利用活用できる資材を賛助会員として、正会員の方々にご提供し、少しでもクリーンな環境づくりのお役に立ちたいと願っております。



建築家に望む!木造住宅の良さを

篠田 和秀
(株)シノダ

激変の20世紀から変革の21世紀へ、真に己巳あらゆる面で脱皮しなければ生き残れません。

昔から人が生活する為に必要なものは衣食住と言われます。中でも衣食については、和から洋へと変遷はあってもそれなりに余り支障はありませんが、住については大いに問題があります。

最近の若い人達が住宅を建てる場合はプレハブ住宅を好む傾向が多く見られます。理由は工期が早い、洋風で内外共見た目はきれい等々、これも情報化時代の流行の産物であり、有害のクロス張りの部屋での生活は健康面でも問題である。環境や人にやさしく健康的住宅は何と云っても在来工法による木造住宅である。幸いにして長野県は木材が豊富である。木の香りと温もり、障子の暖かみ、呼吸している壁、精神的に落ち着ける床の間付和室、これからの高齢化時代にとって安らぎのもてる生活空間こそ木造住宅であると思います。

日本人の生活に最も合った日本古来の伝統文化である木造住宅の良さを、建築家の皆さんによって、長野県から呼び起して下さい。

クラブインサイド

第1回事業委員会

片倉 隆 幸

12月13日、第9回文化講演会について講師候補を伊東豊雄氏をはじめとして数人あげる。伊東氏は、松本市の市民会館を設計することもあり市民とともに町全体のランドデザインを考えることで第一候補とする。あすなろ建築展についての反省をおこないパネル等作品の取り扱いについて慎重にすることなど反省点をあげる。

第7回幹事会

場々 洋 介

1月25日、メルパルクNAGANOで開催。昼から幹事会、CPD研修会、新年会と続く。幹事会では2月27日松本のホテルブエナビスタで開催予定の第9回文化講演会(伊東豊雄)、5月の総会の企画について検討された。

記念講演は講師に写真家の木田勝久氏を予定。また長野県学生卒業設計コンクール2001に中野実業高校の参加が承認された。また支部幹事は松下会長が兼務となった。新年初会合で職能について考えさせられた1日でもあった。

会員委員会

久保 隆 夫

1月25日メルパルクNAGANOにて『会員研修会』を開催。本部より河野本部副会長、大宇根CPD運営委員長の両氏をお招きし「JIAの課題とこれから」、「CPD=継続職能研修」について講演いただいた。正会員30名、賛助会員15名ほかの参加により熱心な質疑応答が展開され今後の会員による自己研鑽活動には多に期待される一方、地域会における当該事業の運営、集約なども懸念される。

第3回情報特別委員会

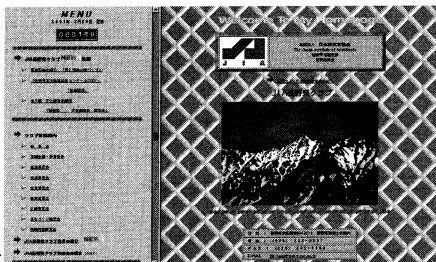
関 邦 則

1月25日。長野市のメルパルクNAGANOにて開催。先頃オープンしたホームページの概要報告と更なる内容充実に向けて意見交換を行った。続いて「愛と情熱の家づくり」vol.2の企画を推進するための意見交換を行い、具体的にメンバーを構成し作業を進めることとした。年内発刊を目指したい。

ホームページオープンのお知らせ

関 邦 則

本年の委員会の中心的事業であったクラブのホームページがオープンしました。コンテンツは「愛と情熱の家づくり」紹介、学生卒業設計コンクール募集案内、文化講演会案内そして委員会活動紹介となっています。今後は各自のホームページへのリンクも計っていきたく考えています。



<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>

クラブアウトサイド

第8回支部会員委員会

久保田 三 代

11月28日、「会員集会」及び「新会員の集い」開催。「会員集会」のテーマは、鬼頭座長の建築家資格制度について、大宇根実行委員長の継続職能研修(CPD)について。「新会員の集い」は参加者7名、鬼頭座長他約20名のJIA役職の方々を交え懇談、懇親会を行った。

第5回本部地域委員会

出 澤 潔

12月4日開催。内子大会での第6回全国地域会合同会議の結果を確認し、「地域会の意義とJIAの活動組織における地域会合同会議の位置付け(案)」の内容について討議。各委員及び各地域会長の意見を再度求めて成案として、理事会に提案することとした。地域事業助成費の追加申請を審議し、本年度分を決定した。

第10回支部保存問題委員会

依 田 政 司

1月12日開催。2月17・18日開催の保存問題山梨大会についてスケジュール等最終の打ち合わせを行った。役割分担等については、次回に打ち合わせ予定。その他の問題では、銀座ライオンピアホールについては、Bulletin 2月号を参照してください。

第7回支部総務委員会

久保 隆 夫

1月18日開催。平成12年度決算見込表による検討。いまだ退会及び会費未納者が多く大幅な減収が予想され、支部、地域会を通じて会費回収を促す。また次年度への対策として地域会活動費削減、準会員制度など本部へ提案、報告する。

第7回支部業務委員会

関 邦 則

1月31日開催。工事監理分離問題や八省庁による設計施工一括発注方式検討などについての様子が報告された。JIA館内に橋本喬行文庫ができた。地域会とのパイプづくりは千葉地域会から始める。

— 新入会員紹介 —

賛助会員
(株)新和建材 (長野市)
日本硝子建材(株) 高崎支店 (高崎市)



JIA長野県クラブ

編集人 依田政司
発行人 松下重雄
発行所 JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026(232)3897
FAX 026(232)5303
作成 新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。